

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.1.22)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	九大文系教育研究棟	階数	地上9F
建設地	福岡県福岡市	構造	S造
用途地域	一種住居、一種中高層住居専用地	平均居住人員	2,000 人
気候区分		年間使用時間	2,600 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 0.0	評価の実施日	2016年1月15日
敷地面積	45,194 m ²	作成者	石本 阿部永
建築面積	12,831 m ²	確認日	2016年1月15日
延床面積	52,638 m ²	確認者	石本 松尾和彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.8</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.3</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.6</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 3.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.7</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.3</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>高度な教育と研究をおこなう施設として、各部の特性に応じた室内環境を確保するとともに、発信や交流活動もできるインナーモールなどの大規模連続空間を設けることで学際性・総合性を高められる施設とする。また外部空間を充実させ、内外一体となった施設として機能させる。</p>	<p>その他</p> <p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>内装仕上は天井を吸音系の仕上げとする。室間の間仕切り壁は乾式構造の壁とし室の利用内容に応じて遮音性を確保するようにする。外壁には庇を回し、一部ルーバーを設けるなど自然光をコントロールして取り込む。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>室の使用内容、将来想定をみこして、室の広さおよび高さについて必用かつ十分なものとす。インナーモールやリフレッシュ室など効果的な待合・休憩空間を設ける。内装材は破損しにくく、清掃しやすいものを使用す</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>非舗装地を多く残し、舗装面は透水性材料などを使用し雨水浸透に配慮する。植栽を極力行い周辺地域との緑の連続性に配慮し、また敷地内の既存樹木を保存し外構計画を行っている。雨でもアクセスや移動がしやすい内部連続</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>外皮は十分な断熱構造とし負荷を押さえる。庇やルーバーで調整した外光を効果的に利用する。クールチューブや太陽光パネルの設置、また高効率型・熱交換型などの設備機器を設けエネルギーの有効活用を図る。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>グリーン調達品やエコマーク品を積極的に活用し資源保護に資するようにする。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>掘削土を盛り土に転用するなど敷地外に環境的負担をかけないようにする。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される